

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おひさま発達支援室川越			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 3日		～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数)	8人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 3日		～	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が通所を楽しみにしてくれていること。	個々の課題を遊びや興味のあることを通じて、まずは短期の目標を改善できるよう実行し、保護者、就業者がその進捗をお互いに共有して長期の目標課題を5領域の観点を重視して改善に取り組めます。	子ども達が飽きずに集中できる遊びや興味のあることを探り出すために、就業者間で日々情報共有を密接にしている。
2	各保育園との連携	保育園に通所しているお子様において、保育園の行事やスケジュールを確認をして子ども達にとってそれを意識したプログラムの構成を組んでいる。	保育園、保護者からの保育園での様子を注視をして、お子様本人に負担がないよう連携を強化していく。
3	個々にあったプログラムの創作と実行。	月間プログラム作成時に各曜日での出席者に合わせて構成を作っている。毎日、そのプログラムの取組の結果、様子を就業者全員に共有をしている。	プログラムで改善が期待できた内容について、保護者の方へ言葉(文字)以外で写真等で効果を伝えていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が参加できる行事や保護者への支援において開設初年度ではあったが、取り組めていない。	開設初年度で保護者とのコミュニケーションが上手くいかないこともあり、その先へ進むこともできなかった。	通常では、保護者と接する機会が少なくコミュニケーションを連絡帳などに頼ってしまったため、保護者も参加できるような行事をプログラム等で検討をしていく。
2	放課後等デイサービスの子ども達や地域の子供達と活動する機会を設けられなかった。	小学生の夏休み・冬休み等で一緒の時間帯に在籍する機会はあったものの安全を考えて部屋を分けて活動をしたため、交流できる機会を逃してしまった。プログラム作成時に交流を目的とした構成ができていなかった。	夏休みや冬休みには「おひさま」独自の行事等を検討して、協同での制作や活動を考え、深く交流する機会を設ける。
3	SNSやアプリなどの画像を使った取り組みの紹介ができていない。	プライバシー保護の観点から文字以外の情報をほとんど保護者へ伝達できていない。保護者からの要望は多いため、個々の要望に合わせて、公開の方法を検討する。	HUGシステムでの公開の案内とSNSの利用で幅広く伝えることができるよう検討する。